

資 料 看護学生が手術室見学実習を意図的に臨むための

教育的試み：第2報

—手術室看護師が感じた手術室見学実習記録用紙を用いた指導の効果—

昭和大学保健医療学部看護学科

大 滝 周* 大木 友美

昭和大学江東豊洲病院手術室

加藤 祥子

抄録：周手術期実習では、手術前、手術中、手術後の経過を辿る患者を理解するために病棟だけではなく手術室での実習が組み込まれている。手術室実習の多くは患者が手術を受けている数時間で完結となり、実習指導は手術室看護師に一任されていると言われている。本研究では、看護学生が意図的な思考で手術室見学実習に臨めるように作成された手術室見学実習記録用紙（以下、記録用紙）を用いた指導の状況および手術室看護師が感じた記録用紙を用いた指導の効果を調査した。調査方法は、38名の手術室看護師に対して記録用紙を用いた指導に関する自記式無記名質問紙調査であった。分析対象を本調査に同意が得られた34名のうち1回以上記録用紙を用い指導を行った手術室看護師とし、単純集計および質的帰納的分析を行った。本研究は筆者らが所属する機関である倫理委員会の承認を得た（No. 214）。手術室看護師38名中34名（回収率89.5%）から回答を得た。本研究の結果より、手術室看護師は看護実習指導者講習会を受講していない手術室看護師が指導に携わらなければいけない状況の中で、兼任という複数の役割を遂行しながら看護学生へ指導していることが明らかとなった。また、記録用紙を用いた指導に関する自由記述から得られた記述内容より、186コード、38のサブカテゴリー、12のカテゴリーを抽出した。その結果、記録用紙の流れに沿った指導が及ぼした効果として、『手術室看護師が感じた指導者側の効果』、『手術室看護師が感じた学生側の効果』、『手術室看護師の指導への思い』に関する効果が明らかとなった。

キーワード：周手術期実習、手術室実習、実習指導者

緒 言

近年、医療の進歩や地域支援の拡充などにより、手術後早期の退院が可能となってきた。このような社会背景の変化により、手術を受ける患者を対象とする周手術期実習では、看護学生がさまざまな面で急激な変化が生じる患者を短期間で理解しなければならない現状がある。先行研究において看護学生が周手術期実習に抱く思いとして、手術侵襲や麻酔侵襲により患者の状態が日々変化するため看護学生は患者を理解することに困難感¹⁾や不安を強く感じる²⁾と報告されている。看護学生の指導を行う実習指導者や指導に関わるスタッフにおいても、実習指

導を行う過程でさまざまな喜びを感じる³⁾一方、何をどこまでどのように関わればよいのか悩み、満足がゆく指導ができないという不全感等を抱く⁴⁾ことが明らかとなっている。

周手術期実習では、手術前、手術中、手術後の経過を辿る患者を理解するために病棟だけではなく手術室での実習が組み込まれ⁵⁾、手術室実習の多くは患者が手術を受けている数時間で完結し実習指導は手術室看護師に一任されている⁵⁾と言われている。手術室看護師らは手術室の実習を効果的に行うため方略として、手術室のイメージを作るためにスライドやDVDを用いたオリエンテーション⁶⁾や実際の手術室を使用した患者疑似体験を取り入れたデモン

*責任著者

ストレーション⁷⁾の実施などを行っていることが報告されている。これらは手術室実習を効果的に行うための事前準備に位置づけられる取り組みであると考え、しかしながら、患者が手術を受けている最中の看護学生への具体的な指導方法に焦点をあてた研究報告は見当たらない。

看護系 A 大学の手術室見学実習が行われている B 病院では、1 日平均約 30 件（年間手術件数 7,500 件程度）の手術が行われており、同日同時時間帯に 2 人ないし 3 人の看護学生の手術室見学実習が実施される場合もある。そのため看護学生の指導は実習指導者だけではなく、看護学生への指導経験の少ない手術室看護師が担当しなければならない状況もある。このような背景を踏まえ B 病院では、看護学生が意図的な思考で手術室見学実習に臨めるように看護系 A 大学によって作成された手術室見学実習記録用紙⁸⁾（以下、記録用紙とする）を用いて看護学生の指導を行うこととした。

そこで本研究では、記録用紙を用いた指導の状況および手術室看護師が感じた記録用紙を用いた指導の効果について明らかにすることを目的とした。

研究 方法

本研究の調査期間を 2013 年 9 月～2014 年 4 月とし、周手術期実習と位置付けられる成人看護学実習 I の学生評価終了後、手術室看護師に対して記録用紙を用いた指導に関する自記式無記名質問紙調査を実施した。

本調査で用いた記録用紙とは、著者らが第 1 報として報告した「看護学生が手術室見学実習を意図的に臨むための教育的試み＜第 1 報＞—手術室見学実習記録用紙の作成過程—」⁸⁾で作成したものである。本記録用紙は、看護系 A 大学の手術室見学実習の行動目標（Specific Behavioral Objectives、以下 SBOs とする）に基づき、看護学生の受け持つ患者が手術直前から手術室退室までの間におかれた状況と各時期で提供される看護援助の視点で作成されたものであり、手術室見学実習での見学や観察ポイントが一目で理解できるように可視化されたものである。

1. 調査対象者

B 病院の手術室に勤務する看護師 38 名とした。

2. 調査内容

1) 自記式無記名質問紙調査の項目

(1) 基本属性

基本属性は、年齢、看護師経験年数、手術室看護師経験年数、看護実習指導者講習会受講の有無とした。

(2) 指導状況

指導状況としては調査対象者が記録用紙を用いた指導回数、指導状況（複数回答）を記入した。

(3) 記録用紙を用いた指導に関する項目

①活用状況の質問項目は、[質問項目 1：指導に活用できた]、[質問項目 2：指導が明確になった]、[質問項目 3：指導量が増えた]、[質問項目 4：学生にとって有効である]、[質問項目 5：学生の記録の負担が軽減した]とした。

回答は、質問項目に対し「非常にそう思う」「時々そう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の 4 件法であった。

②記録用紙を用いた指導について自由記述欄に自由に記述させた。

3. 調査方法

実習開始前に、手術室実習指導者が手術室看護師に対し、記録用紙が作成された意図、記録用紙の内容、また注意事項として手術室見学実習における見学や観察ポイントが可視化されたものであり、すべての項目が実施あるいは見学することが目的ではないことを説明し、記録用紙の流れに沿った指導の依頼を行った。成人看護学実習 I の学生評価終了後、手術室看護師に対して記録用紙を用いた指導に関する自記式無記名質問紙調査を実施した。

4. 分析方法

分析対象は、本調査に同意が得られた 34 名のうち 1 回以上記録用紙を用いて指導を行った手術室看護師とした。基本属性および「質問項目 1～5」に関しては、Microsoft Excel 2010 を用いて単純集計を行った。記録用紙を用いた指導に関する自由記述欄の分析は、質的帰納的分析法とした。自由記述の内容に関する記録を列挙した後、記述内容を繰り返し熟読し、文章の意味内容をそこなわないように意味が読み取れる文節を分析単位とし、コード化した。意味内容が類似するものを集め抽象度を上げ、サブカテゴリー、カテゴリーの抽出を行った。質的帰納的分析は、信頼性と妥当性を確保するために筆者らで複数回検討を行った。

5. 倫理的配慮

調査対象者らに口頭で研究の概要を説明し、参加は自由意志であること、参加の有無が業務に影響しないこと、個人のプライバシーは厳守されること、研究結果が公表される場合においても個人が特定されないことを説明し、鍵がかかる質問紙専用の提出箱への投函をもって承諾を得たことにした。本研究は筆者らが所属する機関である倫理委員会の承認を得た (No. 214)。

結 果

1. 調査対象者の基本属性および指導状況

新人看護師を除く B 病院手術室看護師 38 名中、34 名 (回収率 89.5%) から回答を得た。本研究では、記録用紙を用いた指導に対する調査のため調査対象者 34 名のうち 1 回以上記録用紙を用い指導を行った 28 名を対象とした。基本属性は、年齢 28.9 ± 6.13 (mean \pm SD) 歳、看護師経験年数 7.2 ± 6.51 (mean \pm SD) 年、手術室看護師経験年数 5.76 ± 5.65 (mean \pm SD) 年だった。看護師経験年数および手術室看護師経験年数、実習指導者講習会受講の有無、指導状況の概要を表 1 に示す。

2. 記録用紙を用いた指導の実態

1) 記録用紙の活用状況

記録用紙の活用状況に対する 5 つの質問項目の結果を図 1 に示す。

〔質問項目 1: 指導に活用できた〕では、肯定的な意味を指す〔非常にそう思う〕15 名、〔時々そう思う〕13 名であった。〔質問項目 2: 指導が明確になった〕に関して、〔非常にそう思う〕19 名、〔時々そう思う〕8 名に対して、〔あまりそう思わない〕は 1 名であった。〔質問項目 3: 指導量が増えた〕では、〔非常にそう思う〕1 名、〔時々そう思う〕12 名、〔あまりそう思わない〕13 名、〔全くそう思わない〕2 名であった。〔質問項目 4: 学生にとって有効である〕では、〔非常にそう思う〕15 名、〔時々そう思う〕12 名に対して、〔あまりそう思わない〕は 1 名であった。〔質問項目 5: 学生の記録の負担が軽減した〕では、〔非常にそう思う〕10 名、〔時々そう思う〕9 名、〔あまりそう思わない〕8 名、〔全くそう思わない〕1 名であった。

2) 記録用紙の流れに沿った指導が及ぼした効果

記録用紙を用いた指導に関する自由記述から得られた記述内容より、186 コードを抽出した。抽象度

を高め分析した結果、38 のサブカテゴリー、12 のカテゴリーが抽出された。カテゴリーを検討した結果、『手術室看護師が感じた指導者側の効果』『手術室看護師が感じた学生側の効果』『手術室看護師の指導への思い』に分類した。

以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを「 」で示す。

(1) 『手術室看護師が感じた指導者側の効果』について (表 2)

指導者らは、「記録用紙をもとに学生指導を行えたので指導しやすかった」「指導するスタッフにおいて、指導する内容が一貫性を持ってできる」というように<指導しやすい><誰でも同じ指導ができる>と感じていた。指導量に関しては、「内容が細かい分、指導量は増えた」という理由で<指導内容の量が増えた>と受け止める一方、<指導量が適切である><指導量に変化がない>または<指導量の負担が減った>と感じていた。これらのことより、手術室看護師らは記録用紙を用いた指導について【指導に適している】と感じていることが明らかとなった。また手術室看護師らは、記録用紙の内容を<把握しやすい>、<指導内容が絞られている><指導内容が統一されている>と感じており【指導内容の明確化】がなされていると捉えていた。活用状況として<見ながら指導できる><ポイントを絞れる>ので【活用できる】と感じる一方で、<タイムリーに活用できない><活用する時間がない>ため【うまく活用できない】と感じていた。

(2) 『手術室看護師が感じた学生側の効果』について (表 3)

手術室看護師は、記録用紙に対し<手術の流れを視覚的に理解しやすい><学習すべき内容が理解しやすい><学習ポイントが絞られている>、また<行動レベルの内容である>と感じており【学生の学習ポイントの明確化】がされている記録用紙であると捉えていた。また手術室看護師らは、記録用紙に関して<内容が充実している><活用しやすい><記載しやすい>と【記録用紙の内容を支持】していた。学生が記録用紙を活用することに対して、「手術中にすべて記入できる」など<見学と同時に記入できる>と感じ、記録用紙に対して<記述量が減った>、<振り返りやすい>と【記録用紙を用いるメリット】を感じる一方<記録量が増えた>

表 1 調査対象者の基本属性と指導状況

調査対象者の基本属性と指導状況を示した。

N=28

	概要	人数 (割合)
看護師経験年数	2 年目以下	7 (25%)
	3 ～ 5 年目	6 (21%)
	6 ～ 11 年目	7 (25%)
	11 年目以上	5 (18%)
	無回答	3 (11%)
手術室経験年数	2 年目以下	9 (32%)
	3 ～ 5 年目	6 (21%)
	6 ～ 11 年目	7 (25%)
	11 年目以上	3 (11%)
	無回答	3 (11%)
実習指導者講習会受講の有無	あり	3 (11%)
	なし	22 (79%)
	無回答	3 (11%)
記録用紙を用いた指導回数	1 ～ 5 回	27 (96%)
	6 ～ 10 回	1 (4%)
指導状況	専任	0 (0%)
	専任または兼任	3 (10%)
	兼任	25 (89%)
兼任の状況		
	・ 器械だしおよび外回り看護師の指導と兼任	8 (29%)
	・ 器械だし看護師の指導と兼任	9 (32%)
	・ 外回り看護師の指導と兼任	2 (7%)
	・ 外回り看護師業務のみ	18 (64%)
	・ 無回答	4 (14%)

*専任：看護学生の指導を他の業務と掛け持たず、看護学生の指導のみを担当する場合をさす。

*兼任：看護学生の指導と他の業務を掛け持ちながら、看護学生の指導を担当する場合をさす。

＜記録を優先しがち＞＜学生の思考の機会が減る＞
＜予習不足となる＞というような【記録用紙を用いるデメリット】も感じていた。

(3)『手術室看護師の指導への思い』について (表 4)

手術室看護師らは「手術室では、患者と話す機会が少ない分患者に触れて、観察したり、アセスメント、ケアができる機会を少しでも作ろうと思う」など具体的な指導方針をもっている一方、看護学生への指導に＜指導の難しさ＞や＜自身の指導へのフィードバックがほしい＞と感じていた。また記録用紙に＜記述欄がほしい＞＜文字でいっぱいになる＞と記録用紙に対する要望も抱いていた。これらのことより看護学生の指導を行う手術室看護師らは

【学生指導に対する熱心さ】を有していることが明らかとなった。指導を通して＜自身の看護を試されていると感じる＞ながらも、＜自身の実習経験の振り返り＞＜以前の実習指導の振り返り＞＜指導を通して、自身を振り返る＞など【自身を振り返る】機会となっていた。手術室看護師は【手術室看護師の願い】として＜手術看護に興味をもってほしい＞＜学生への期待＞を抱いていた。

考 察

1. 指導状況の実際

B 病院の手術室見学実習の指導状況として、看護学生の指導と他の業務を掛け持ちながら看護学生の指導を担当する兼任（以下、兼任とする）の状態で

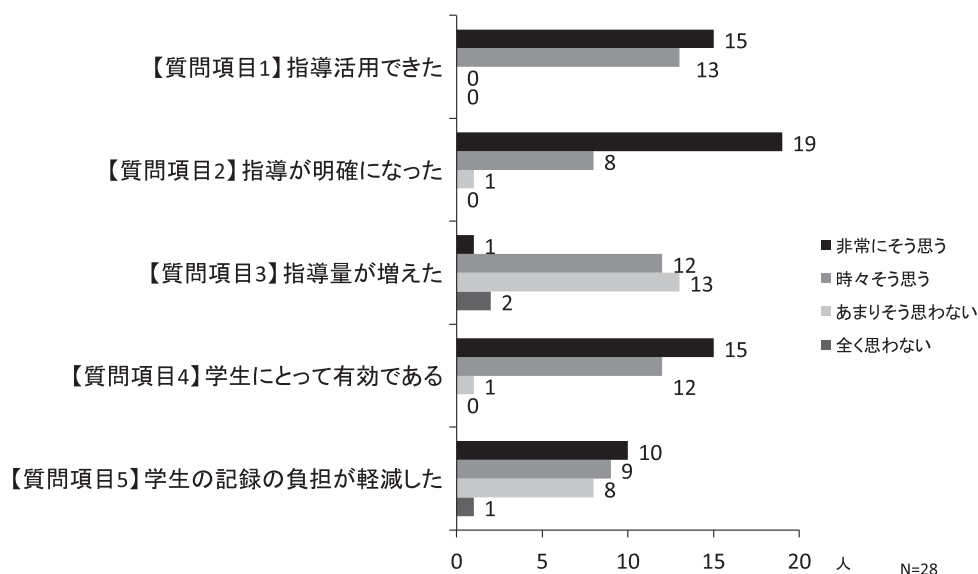


図1 記録用紙の活用状況
分析対象となった28名の手術室看護師の記録用紙の活用状況を示した。

指導した手術室看護師は28名中25名(89%)と全体の約9割を占めていた。兼任の状態として外回り看護師あるいは業務のみとは限らず、看護学生の指導をしながら器械出し看護師や外回り看護師の指導も同時に行っており、手術室看護師が看護学生の指導をしながら複数の役割を遂行していることが明らかとなった。この結果は、深澤らが調査した看護基礎教育における手術室実習の実態調査⁵⁾で明らかとなった手術室実習の指導が手術室の看護師に任せられているという結果と類似しており、手術室看護師を取り巻く指導状況の様相が明らかになったと考える。

看護実習指導者講習会受講の有無の質問では、受講している看護師28名中3名(11%)に対し、受講していない看護師が28名中22名(79%)であった。看護実習指導者講習会とは、実施主体が都道府県又はこれに準ずるものとして厚生労働省が認めるものとなり、厚生労働省より通達されている「保健師助産師看護師実習指導者講習会実施要綱」に基づき開催される講習会である。看護実習指導者講習会では、看護教育における実習の意義および実習指導者としての役割を理解し効果的な実習指導ができるよう、必要な知識・技術を修得するために、教育原理、教育方法などの教育および看護に関する科目や実習指導の原理、実習指導の実際などの実習指導に関する科目を学習する。このような指導に必要なさ

まざまな講習を受けた実習指導者であっても、看護学生への指導に対し葛藤や困難感⁹⁾を感じ、自己の指導者としての能力に対しての自身の欠如、迷いや不安を抱えながら指導している⁹⁾と報告されている。看護実習指導者講習会の受講経験がないスタッフでは、実習指導者以上に葛藤や困難感を抱えていることが容易に想像できる。看護実習指導者未受講者が約80%という本結果では、看護学生の指導について学んだ機会がない手術室看護師が看護学生への指導に携わっている可能性があり、これらの看護師らは葛藤や困難感を感じるとともに、看護学生の指導に対しどこまで、どのように関わればよいのか悩み、満足がゆく指導ができないという不全感⁴⁾を抱きながら看護学生の指導をしている可能性が推測できる。

以上をまとめると、看護学生を指導するための知識や技術、心構えを学ぶことができる実習指導者講習会を受講していない手術室看護師が指導に携わらなければいけない状況の中で、兼任という複数の役割を遂行しながら看護学生へ指導していることが明らかとなった。

2. 記録用紙の流れに沿った指導が及ぼした効果

1) 『手術室看護師が感じた指導者側の効果』について

記録用紙を用いて指導した手術室看護師は、[質

表 2 手術室看護師が感じた指導側の効果
質的帰納的分析から得られた『手術室看護師が感じた指導側の効果』について示す。

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例	コード数
指導に 適している	指導しやすい	記録用紙をもとに学生指導を行えたので指導しやすかった。 学生に参加してもらった部分と見学してもらった部分でそれぞれ指導しやすかった。	9
	誰でも同じ指導 ができる	指導するスタッフにおいて、指導する内容が一貫性を持つてできる。 どの学年のメンバーがついていても指導内容が統一できる。	5
	指導量に変化は ない	特に指導量が増えたとは感じられない。	5
	指導量が適切で ある	内容が明確になった分、指導の量が絞られたと感じられる。	3
	指導量の負担が 軽減した	指導する内容が決まっていた、むしろ減った。	2
	指導内容が増えた	今回、すべてを明確にしているため、増えたと感じる。 内容が細かい分、指導量は増えたと思う。	10
	活用できる	見ながら指導できる 記録用紙を見ながら指導することができた。 わかりやすく記載してあったので用紙を活用しながら、指導した。	7
「うまく」 活用できない	ポイントを絞れる	記録用紙を見ながら指導する必要なポイントを絞ることができた。	4
	タイムリーに活 用できない	特に麻酔導入時（麻酔方法）は術中に振り返る形での指導になってしまう。	3
指導内容の 明確化	活用する時間が ない	手術時間が短く、記録用紙を見る時間がなかった時があった。	2
	把握しやすい	指導内容の把握もしやすかった。 自分がどのようなことを指導すればよいのかをおおよそ把握することができた。	8
	指導内容が絞れ ている	何を一緒に観察するべきか、指導するべきかが明確になった。 1つ1つ明確にできる内容だったので非常に活用できる内容だったと思った。	10
	指導内容が統一 されている	1～10まで全て細かく書かれているので指導する内容が統一できて良いと思う。 指導自体は、用紙を用いることで、指導内容の統一ができた。	4

問項目1：指導に活用できた] に対し、調査対象者28名全員が「非常にそう思う」または「時々そう思う」と肯定的な回答であった。この理由として、記録用紙が「見ながら指導できる」や「ポイントを絞れる」など記録用紙を【活用できる】媒体であると認識した可能性が考えられる。

指導に関しては「質問項目2：指導が明確になった」の質問に対し、28名中27名が「非常にそう思う（19名）」または「時々そう思う（8名）」と肯定的な回答をした。これは手術室看護師が記録用紙に対し【指導内容の明確化】がなされていると実感で

きたことが要因として考えられる。指導量に関しては、「質問項目3：指導量が増えた」という質問に対し、28名中12名が「時々そう思う」、28名中13名が「あまりそう思わない」と答えた。これは、指導内容が明確化され詳細になったことにより「指導内容の量が増えた」と感じた一方、「指導量が適切である」「指導量に変化がない」「指導量の負担が軽減した」と感じていたように、指導内容の量が増えたが指導量が増えたとは感じていない可能性が推察できる。また、手術室看護師は「誰でも同じ指導ができる」「指導しやすい」など記録用紙を【指導

手術室見学実習記録用紙を用いた実習指導

表 3 手術室看護師が感じた学生側の効果
質的帰納的分析から得られた『手術室看護師が感じた学生側の効果』について示す。

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例	コード数
学生の学習 ポイントの明確化	手術の流れを視覚的に理解しやすい	内容が順を追ってまとまっている。 手術室見学記録用紙に手術の流れ、今、どこの部分をやっているのか、わかりやすく記載してあった。	6
	学習すべき内容が理解しやすい	何を見学してもらって、何を体験してもらって、何を教えればいいかが明確でわかりやすかった。	4
	学習ポイントが絞られている	記録用紙があることで何を学びたいか指導側としてわかりやすかった。 手術室を学ぶのに必要な知識や必要な情報を知るのに役立っていると思う。	11
	行動レベルの内容である	学生が見学、経験することがすべて記載してあるのでわかりやすかった。	5
記録用紙の内容を 支持する	内容が充実している	入室から退室までの流れの中で、看護師がどのように動いているのか、どのようなことをしているのかを具体的に知ることができる記録用紙になっている。	5
	活用しやすい	レ点やまるでチェックするところが多く、整理もしやすく、見やすい。	4
	記載しやすい	具体的に何を記録に記入しなければいけないのかが、記載してあった。	2
記録用紙の メリット	見学と同時に記入できる	手術中にすべて記入できる。 実際の看護を優先して試みることができる。	9
	記述量が減った	文章量軽減していることより、記録量の負担は軽減していると思います。 内容絞って記入できるので記録量は軽減していると思います。	8
	振り返りしやすい	学生にとって、手術室の中をイメージするのに、実習前、後、でも振り返りなどしやすいと思います。	5
記録用紙の デメリット	記録を優先しがち	実際の手術見学より、記録することが優先になってしまっているような。	2
	学生の思考の機会が減る	書かれているところに記入して埋めていくだけなので、考えることが前よりなくなったのではないかと思います。	4
	記録量が増えた	手術時間が短い手術だと記録量が多いと感じる。	4
	予習不足となる	学生の事前学習は少なくなったと思います。	3

に適している】と感じていた。

これらのことより、異なる手術室看護師経験年数の看護師が看護学生の指導を一任される手術室実習の環境において、記録用紙が看護学生を指導するためのガイドとなっていた可能性が推察される。また記録用紙が指導のガイドになることは、指導者が感

じると言われている刻々と変化する臨地状況に合わせた、看護実践の指導の難しさ¹⁰⁾やどのように指導してよいのかわからないという不安全感⁴⁾に対する支援の一つになる可能性がある。

一方、記録用紙を用いた指導の依頼時、すべての項目で実践あるいは見学することが目的ではないこ

表 4 手術室看護師の指導への思い
質的帰納的分析から得られた『手術室看護師の指導への思い』について示す。

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例	コード数
学生指導に対する熱心さ	具体的な指導方針をもっている	麻酔導入～手術開始までは、忙しい時間帯になりますが、できるだけ今何をしているのかをタイムリーに説明するように心がけています。	7
	指導の難しさ	手術室では、患者と話す機会が少ない分患者に触れて、観察したり、アセスメント、ケアができる機会を少しでも作ろうと思う。	4
	自身の指導へのフィードバックがほしい	自信がなくてうまく説明ができないときもある。	2
	記述欄がほしい	手術室で実習をしてから、病棟でどう手術室で学んだことが生かされているか知りたいと思った。	4
	文字でいっぱいになる	学び（学生の考え）を書くところがもう少しあるとよい。	4
自身を振り返る	自身の実習経験の振り返り	指導者のコメントを書く欄が小さくなってしまった。	5
	以前の実習指導の振り返り	自分が学生だったとき、看護師にこうしてほしかったと思うことを思い出しながら、指導に当たるようにしています。	2
	指導を通して、自身を振り返る	以前、指導する看護師によって指導する内容も量もばらつきがあったと感じられていた。	4
	自身の看護を試されていると感じる	一緒に医師に質問したり考えたりすることで、自分の振り返る機会になったり、成長を感じられる機会にもなっている。	1
手術室看護師としての願い	手術看護に興味をもってほしい	スタッフの力量、看護観が試されていると思います。	4
	学生への期待	手術室で働きたいと思ってくれたり、手術室看護師に興味をもってくれたら、うれしいです。	5

とを説明したにも関わらず、手術時間が短い手術では＜活用する時間がない＞や手術の進行を優先させるため＜タイムリーに活用できない＞など記録用紙を【「うまく」活用できない】と感じていたことも明らかとなった。これらは、手術という時間的制約による不全感¹¹⁾やうまく活用できなかったことで指導への困難感を抱いていたことが考えられる。

以上をまとめると、手術室看護師が感じた指導者側の効果として、手術室看護師が手術の進行状況により記録用紙をタイムリーに活用できずうまく活用できないと感じることもあるが、記録用紙が指導内容の明確化された記録用紙で指導に適していると感じ活用したことが明らかとなった。この記録用紙が看護学生を指導するためのガイドとなっていたこと

が推察された。

2) 『手術室看護師が感じた学生側の効果』について

〔質問項目4：学生にとって有効である〕の質問に対し、28名中27名が〔非常にそう思う（12名）〕または〔時々そう思う（15名）〕と肯定的な回答をした。これは、記録用紙を＜手術の流れを視覚的に理解しやすい＞＜学習すべき内容が理解しやすい＞＜学習ポイントが絞られている＞そして＜行動レベルの内容である＞など【学生の学習ポイントの明確化】されているものだと感じたためだと考える。また＜内容が充実している＞＜活用しやすい＞＜記載しやすい＞と感じたように【記録用紙の内容を支持】していることが明らかとなった。このことより

手術室看護師は、記録用紙を用いた指導をするために記録用紙の内容を吟味するとともに、学生が学習する上で有効な記録用紙だと捉えていたと推察できる。著者らの先行研究で示すように、看護基礎教育において手術室に関連する経験や情報などを知る機会が少ない看護学生と指導者間に専門知識や患者を支援するための情報の差があり相互関係が成立しにくい¹²⁾可能性が明らかとなった。しかし本研究で手術室看護師らが記録用紙の内容を支持し指導に用いたことで、記録用紙が看護学生と指導者の両者が共通の言語として活用することができ、看護学生と指導者間のよりよい関係性を築ける可能性がある。手術室看護師は、[質問項目5: 学生の記録の負担が軽減した]という質問に対し、28名中19名が「非常にそう思う(10名)」または「時々そう思う(9名)」と回答をした。この理由として、＜見学と同時に記入できる＞＜記録量が減った＞＜振り返りやすい＞という【記録用紙を用いるメリット】を感じていたことが考えられる。一方、[質問項目5]に対し、28名中9名が「あまりそう思わない(8名)」または「全くそう思わない(1名)」と答えた。これは＜記録量が増えた＞＜記録を優先しがち＞＜学生の思考の機会が減る＞＜予習不足となる＞というような【記録用紙を用いるデメリット】を感じていたことが考えられる。深澤らは手術室実習を初学者である看護学生では手術室で行われている看護を理解することが困難な実習¹³⁾であると報告している。看護学生が手術室で提供されている看護を理解することは困難であることは容易に推測できるが、手術室看護師らは記録用紙の＜見学と同時に記入できる＞というメリットを活かし、＜記録に優先しがち＞な看護学生に記録用紙を記録するタイミングを伝えることで、看護学生が手術室で提供されている看護の理解に繋げることができると感じていた可能性が示唆された。

以上をまとめると、手術室看護師らは指導者側の効果だけではなく、記録用紙を用いた指導を通して看護学生への効果を感じていたことが明らかとなった。看護学生への学習ポイントの明確化された記録用紙の内容を支持し指導に用いたことで、記録用紙が看護学生と指導者の両者が共通の言語として活用することができ、看護学生と指導者間のよりよい相互関係の構築に繋がる可能性が推察された。また、

記録用紙を用いる指導の有用性として手術室見学実習の行動目標に沿って作成された記録用紙を用い指導することで、学習に必要な項目が不足することなく看護学生が行動目標にスムーズに到達するための一助となっていた可能性が示唆される。

3) 『手術室看護師の指導への思い』について

看護学生を指導する指導者の思いとして、藤原らによると実習指導を通して教えることが自分自身の成長する機会として肯定的な思いを抱く一方、指導能力不足の自覚や実習指導者の学生の困難感を抱いている¹⁴⁾と述べられており、指導者は看護学生の指導を行いながら相反する感情を同時に抱いている可能性が示唆されている。本研究において、手術室看護師は看護学生の指導に対し＜指導の難しさ＞や＜自身の指導へのフィードバックがほしい＞と感じた一方＜具体的な指導方針をもっている＞ことより、肯定的な思いと困難感の相反する感情を同時に抱いていたことが明らかとなった。先行研究において、看護学生が効果的に手術室実習が行えるように手術室看護師はDVD⁶⁾を用いたオリエンテーションや手術患者の疑似体験⁷⁾を実施していることが報告されている。手術室実習は専門性が高い領域¹⁵⁾の実習であると言われているが、手術室実習で提供される手術看護を理解させるように試行錯誤をしながら実習指導に取り組んでいるといえる。本研究においても、記録用紙に対し＜記述欄がほしい＞という現在の記録用紙の状態よりもさらに看護学生の学習が向上される記録用紙になることを望んでおり、【学生指導に対する熱心さ】を有していると推測できる。さらに手術室看護師らが指導を通して、＜自身の看護を試されていると感じる＞ながらも、指導を通して手術室看護師自身の実習経験や看護学生の指導などを振り返っていたと考える。山根ら⁴⁾が報告したように、振り返りをすることで学生の置かれた状況に気づくとともに、手術室看護師が「スタッフの力量、看護観が試されていると思います」と語っているように、学生の存在を認識する中で自身の看護援助について考える機会となっていた可能性がある。【手術室看護師の願い】として、＜手術看護に興味をもってほしい＞＜学生への期待＞を抱いていた。川嶋らが看護実践を通し指導者は学生に看護の専門性を伝えていく役割がある¹⁶⁾と述べているように、本研究においても手術室看護師が感じてい

る手術看護の専門性や魅力を伝えたいという気持ちを抱いていた可能性が推測される。

以上をまとめると、手術室看護師の指導への思いとして、看護学生への指導に対して＜指導の難しさ＞を感じる一方、＜具体的な指導方針や記録用紙に要望を持つなど学生指導に対する熱心さを有しており、手術室看護師らは指導を通して、＜自身の看護を試されていると感じる＞ながらも、これまでの自身の経験を振り返り、手術室看護師が感じている手術室看護の専門性や魅力を伝えたいという気持ちを抱いていた可能性が推測された。

3. 今後の課題

本研究では、手術室見学実習の指導状況の実際を明らかにするとともに、記録用紙の流れに沿った指導がもたらした効果を調査した。その結果、記録用紙の用いた指導を通して手術室看護師らは指導者側の効果だけではなく、学生側の効果も感じていたことが明らかとなった。しかし、本研究は1施設のみの調査のため、本調査結果のみでは一般化はできない。今後、多施設での指導状況の調査を行い手術室実習における看護学生への指導体制を検討するとともに、記録用紙を用いた指導が実習指導者に及ぼす効果について継続調査を行い、手術室の実習環境に即した具体的な指導方法を検討することを課題としたい。

利益相反

本研究に関して、開示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 明石恵子. 急性期(周手術期)看護学実習“困難”をどう乗り越えるか. 看護展望. 2001;26:1201-1206.
- 2) 足立佳世, 中元久美子, 尾崎フサ子. 手術患者を受け持つ学生の実習展開と不安. 大阪看護大紀. 1994;16:81-84.
- 3) 堀 理江, 大塚真代. 成人看護学領域における実習指導者の指導観. ヒューマンケア研究会誌. 2013;5:19-26.
- 4) 山根美智子, 渡邊カヨ子. 急性期病院における看護学生への実習指導に対する看護師の思い. 獨協医大看紀. 2012;5:61-73.
- 5) 深澤佳代子. 看護基礎教育における手術室実習の動向 公立看護系大学の実態調査より. オペナニング. 2006;21:208-214.
- 6) 米田弥里, 遠藤典子, 堀田牧代, ほか. 手術室に来る看護学生の効果的な指導の取り組み 臨床指導者としての役割. 日手術学会誌. 2012;8:45-47.
- 7) 大下麻希, 佐藤優子. 効果的な手術室実習の取り組み. 日手術学会誌. 2013;34:268-271.
- 8) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生が手術室見学実習を意図的に臨むための教育的試み(第1報) 手術室見学実習記録用紙の作成過程. 昭和学生会誌. 2016;76:451-458.
- 9) 米田輝美, 前川直美, 沖野良枝, ほか. 実習指導者講習会が指導者の役割遂行に及ぼした影響. 人間看護. 2008;(6):70-90.
- 10) 近藤ふさえ, 田中ひとみ, 堀越克代, ほか. 病院内における臨地実習指導者のキャリア発達支援プログラム構築のための基礎的研究. 順天堂保健看護. 2013;2:1-10.
- 11) 小澤尚子, 原島利恵. 手術室看護師が看護基礎教育で経験した手術室実習の思いと看護実践への影響. 日手術学会誌. 2014;10:232-237.
- 12) 大滝 周, 大木友美, 加藤祥子. 看護学生の手術室見学実習を効果的に実施するための教育的試み(第1報) 手術室入室から退室までの支援を理解するための資料の作成過程. 昭和大保健医療学誌. 2014;(12):117-124.
- 13) 深澤佳代子. 手術医学教育と研究の方向性 看護基礎教育における手術室看護の位置づけと教授方法について 手術室実習について. 日手術学会誌. 2006;27:296-298.
- 14) 藤原 舞. 臨地実習指導者の肯定的な思いと困難感についての文献検討. 神奈川保健福大看護研録. 2014;(39):104-111.
- 15) 佐藤紀子, 若狭紅子, 土蔵愛子, ほか. 手術室看護の専門性とその獲得過程に関する研究. 東京女医大看紀. 2000;3:19-26.
- 16) 川島美佐子. 看護学生と臨床指導者の経験の語りの様相. 看護学研究紀要. 2013;1:41-50.

AN EDUCATIONAL TRIAL TO CARRY OUT THE OPERATING ROOM
PRACTICE OF NURSING STUDENTS: PART II
—EFFECTS OF COACHING USING OPERATING ROOM PRACTICE
RECORDING PAPER OF PRACTICAL INSTRUCTOR—

Amane OTAKI and Tomomi OHKI

Department of Nursing, Showa University of Nursing and Rehabilitation Sciences

Shoko KATO

Showa University Koto Toyosu Hospital

Abstract — Perioperative practice is performed in an operating room as well as on the ward, so that a nursing student understands perioperative patients. Most of the operating room practice is completed within the several hours when the patient is undergoing surgery. It is said that the coaching of nursing students is the responsibility of the nurse in the operating room. The aim of this study was to assess the situation of coaching using the operating room practice recording paper and to evaluate the effect of recording paper on practical instructors. We conducted a survey on coaching using operating room practice recording papers for 38 operating room nurses. The data was analyzed by simple tabulation and qualitative analysis. This research was approved by the ethics committee which is the organization to which the authors belong (No. 214). We obtained responses from 34 operating room nurses (response rate 89.5%). The results of this study clarified the following: Operating room nurses who have not taken nursing practice instructor training courses have to coach nursing students, which includes coaching nursing students at the same time as carrying out multiple roles of the concurrent duties in the operating room situation. Further, we extracted 186 codes, 38 sub-categories, and 12 categories from the words obtained from the free description about coaching using recording paper. Regarding the effect of recording paper on practical instructors, the following were identified: “the effect of the instructor side felt by the operating room nurse” “the effect of the nursing students side felt by the operating room nurse” and “thinking about coaching of the operating room nurse”.

Key words: perioperative practice, operating room practice, practical instructor

[受付：4月3日，受理：5月6日，2017]